

# ひき縄漁業におけるビンナガ（通称：トンボ）の不漁と好漁の予測 水産試験場

## 研究のねらい

ビンナガは、冬季～早春に紀州沖に来遊し、ひき縄漁業の対象になる重要な魚です。その漁獲を予測するのに、潮岬沖と八丈島付近の黒潮流路が役立つ可能性が示されました。さらに、漁獲した魚体の大きさも、好漁と不漁の目安になることがわかりました。

## 研究の成果

- ①潮岬沖のひき縄によるビンナガの漁獲は、およそ黒潮が潮岬沖に接岸し八丈島の北側を流れるときに好漁となります。黒潮が潮岬沖から離岸し八丈島の南側を流れる年（大蛇行年）には、不漁となります（図1）。
- ②漁期は、黒潮が潮岬沖に接岸すれば長くなり、離岸すると短くなる傾向があります。
- ③1999～2001年のように大型魚（90～100cm級）が漁獲される年は不漁となります。2002年は小型魚（70cm級）が漁獲され、4年ぶりに好漁となりました。（図2）

## 研究成果の活用面・留意点

このような知見を積み上げることで、より精度の高い漁獲が予測できるようになります。近年、エルニーニョ現象などが引き起こす大規模な海況の変動などもあり、さらに調査をつづける必要があります。

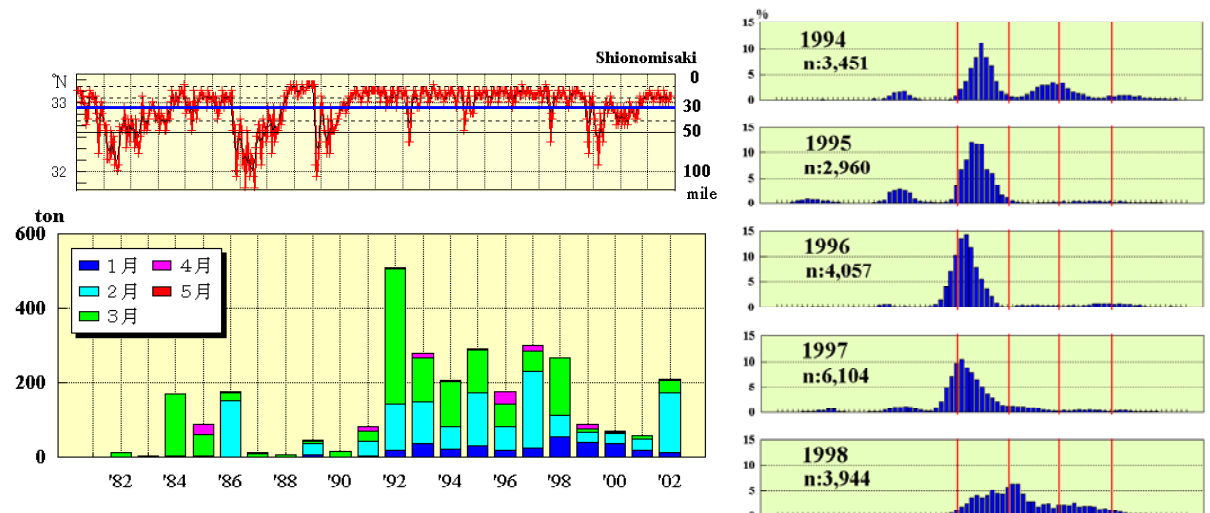


図1 潮岬沖の黒潮位置とビンナガの漁獲量（串本、ひき縄）

## ビンナガ



トンボ、ビンチョウとも呼ばれ、長い胸びれを持ち、トンボが飛ぶように泳ぐのが特徴的である。全世界の亜熱帯・温帯海域に分布し、肉は白っぽく油漬缶詰（シーチキン）によく利用されています。

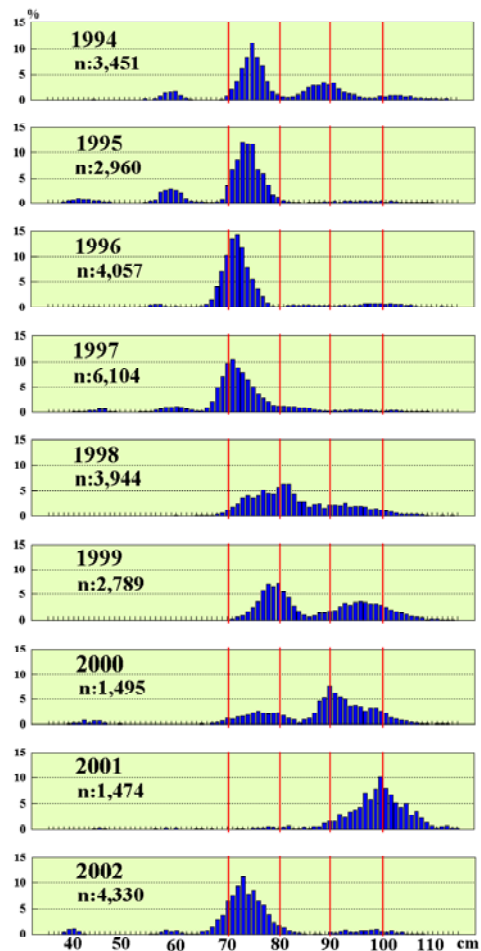


図2 ビンナガの年別体長組成（串本、ひき縄）  
（問い合わせ先：0735-62-0940）